

手紙による実践例

バーチャル旅行記

これは、中学2年生を対象にした実践です。この実践は、仮想の旅行を実際に行ってきたように想像して書き合うという本格的な双方向型の学習活動を目指したものです。手紙の形で旅行先から書くという前提に立っているために、旅行としてのリアリティが問われ、旅行中の出来事などの描写の内容や表現が問われることになります。

《学習の流れ》

- ① 旅行先を決める。
- ② 旅行先に関する資料や情報を集める。
- ③ 地図や資料を見ながら、友達に勧める旅行計画を立てる。
- ④ 旅行計画に基づいて友達に旅行を勧める手紙を書く。
- ⑤ 旅行を勧める手紙と旅行計画書を読み、旅行先から旅行の様子を知らせ、勧めてくれたお礼を述べる手紙を書く。

部活動の後輩へ

手紙の指導においては、相手意識を明確にもつことが重要なポイントとなります。相手を明確に意識した具体的な場面での内容や表現方法の工夫をさせていくことが大切です。したがって、授業では、手紙の指導を通じて、生徒に具体的な言語生活の場で書かせるようにしたいと考えます。

《学習の流れ》

- ① だれに出すのか決める。
- ② どんな内容にするのか考える。
- ③ 手紙の書き方のルールについて学習する。
- ④ 下書きをし、友達に読んでもらい、改善点を見つける。
- ⑤ 清書をする。
- ⑥ 表書きを書き、手紙を後輩に出す。

クラスの悩み相談室

クラス内に「悩み相談室」を開設し、友達の悩みを解決するため、悩みの問題点とその解決方法を手紙に書くという実践です。

《学習の流れ》

- ① クラスで悩み事を募集する。
- ② 悩み事の問題点とその解決方法について考える。
- ③ 手紙の下書きをする。
- ④ 添削をし、清書をする。
- ⑤ 表書きを書き、友達に手紙をわたす。

中学時代の恩師へ

「10年後の自分の立場で中学時代の先生に手紙を書く」という実践です。中学2・3年生の生徒が卒業して10年後といえば、25、6歳という年齢です。ほとんどの人たちが社会人となって、それぞれの職業に就いているはずですが。そうした立場から、生徒に「中学時代の夢が実現した」という想定のもとで、先生宛に手紙を書かせるわけです。

《学習の流れ》

- ① 10年後の自分の姿をイメージし、自分の立場を決める。
- ② 手紙の書き方のルールについて学習する。
- ③ 手紙の下書きをする。
 - ・ 10年後の自分の近況を入れる。
 - ・ 自分の夢が実現したという想定で書いていく。
- ④ 推敲し、清書をする。
- ⑤ 表書きを書き、友達にわたす。
- ⑥ 友達と、お互いに先生と教え子になったつもりで、先生から教え子への手紙を書く。